

資料1：スーパービジョンのさまざまな定義

スーパービジョンについてさまざまな定義があります。下に幾つかの例が挙げられていますが、これらの定義の違いはどこにありますか。どの定義があなたの理解に近いですか。

定義1：

スーパービジョンは、クリティカルに導かれた自己反省の過程である。反省するなかで、スーパーバイザーにはもはや知覚されない過ぎ去った現実、あるいはまだ知覚されていない現実が再び視野にいれられ、無意識であったものが意識化される。自分との関係、自分と環境との関係について視野を拡大するこの進行は、認知過程であるだけでなく、同時に情動的過程である。(WEIGAND, W.: Supervision. Durch Selbstreflexion zur Emanzipation. In: Akademie für Jugendfragen Münster(Hrsg.): Supervision im Spannungsfeld zwischen Person und Institution. Freiburg i. Br. 1979, 90)

定義2：

スーパービジョンは教育的に影響をもつ過程、あるいはセラピーや相談のような影響をもつ過程である。この過程で人格的コンピテンスや専門的コンピテンス、社会的な振舞コンピテンスを拡大する目標をもって、1人の経験ある、専門的コンピテンスのある人物(スーパーバイザー)が、専門的に未経験な人物(スーパーバイジー)に、相談や指導の形式で、あるいはさまざまな課題と結びついたコントロールの形式で、学習の可能性を提供する。(PLESSEN, U. & KAATZ, S.: Supervision in Beratung und Therapie. Salzburg 1985, 25)

定義3：

スーパービジョンは、同じ労働領域あるいは別の労働領域出身でありうるスーパーバイザーが、実践家(スーパーバイジー)の事例研究に方向付けて専門的に同伴し、相談を受けるものである。スーパービジョンは、一人でもグループでも行われ、スーパーバイジーの職業コンピテンスを促進し、補強し、スーパーバイジーの精神衛生を守るという課題をもつ。(FENGLER, J.: Supervision. Eine allgemeine Einführung. In: Geistige Behinderung, 4/1986, 252)

定義4：

スーパービジョンの受け手(スーパーバイジー)は、人間関係を専門的行為の対象としている全ての領域の人物である。スーパービジョンの対象は、スーパーバイジーのその時々この専門的行為である。そのさいスーパーバイジーと同様に、スーパーバイジーのクライアント(患者、助言を求めている人、訴訟依頼人、生徒など)、あるいはスーパーバイジーとクライアントならびに制度の間のインクーアクションが中心となる。(WEISBACH, CH.-R.: Training des Supervisionsverhaltens durch Videoselbstkonfrontation und parallelgeschaltete Kontrollsupervision als Stimulated-Recall-System. In: Unterrichtswissenschaft, 1/1989, 25)

定義5：

スーパービジョンは形式的な定義の意味において、一人の特別な経験者(スーパーバイザー)がそんなに経験の無い人(スーパーバイジー)に、確実な表象の枠内で(...)具体的な条件のもとで、一定の「課題」(内容)と処置(方法)によって、変化(スーパービジョンの影響)を意図して、定期的なコミュニケーションを通して、自立的に労働できるように援助したい行為として特徴付けられる。加えて言えば、ほとんど経験の無い人が、スーパービジョンを自ら責任を持たねばならない労働のための必要な相談相手とみなすようにしたい行為として特徴付けられる。(HUPPERTZ, N.: Supervision. Neuwied/ Darmstadt 1975, 10)

あなたの現在の理解状態にしたがえば、スーパービジョンをどのように定義したいですか？

資料 2：学校日常における負荷

スーパーバイザーとして、スーパーバイザーの職業的環境についてのあなたの理解が意義をもつ。それゆえワークに向かう前に、次の課題と質問についてもう一度考えてください：

今日の教師存在： 負荷 — 危険 — チャンス

1. 教師たちは、職業活動のさいに、しばしば大きな要求が設定される。(自己の経験に基づいて?) あなたの見解によれば、最も重要なファクターとその原因を挙げてください。
2. 最近 10 年間に (ないし教師としての職業活動の経過のなかで) どのような負荷ファクターが増えましたか、どのようなものが新たに生じましたか? あなたはそのことをどのように説明しますか?
3. 自己の経験あるいは他者の経験に基づいて教職における高い緊張の持続が健康にもたらす結果を書いてください。あなた自身がそれに該当する場合に、あなたはそれとどのように付き合っていますか? 場合によっては、それに出会っている同僚たちに何を助言したいですか?
4. ポストモダンの学習文化は別の教師力を必要としているという Koesel の見解について、関心のある同僚たちと討論してください。どのような学習文化とどのような今日視力が社会的変遷に適しているのでしょうか?
5. あなたの見解によれば、どのような新しい課題と要求が教師に生じていますか?
6. あなたの考えでは、教師が将来的に、強い負荷と新しい要求によりよく応じることができるためには何が保証されねばなりませんか?
7. そのさいあなたの見解によれば、スーパービジョンは教師にとってどのような位置価値を持つことができるでしょうか?
8. あなたの経験によれば、教育スーパービジョンは、教師のどのような目標グループにとって適切ですか、ないし必要ですか?

資料3：教育スーパービジョン：定義 — メルクマール — 目標

あなたの自己吟味のために、次の課題をしあげてください：

定義：教育スーパービジョン	自分の補足
<p>キールコンセプトの意味における教育スーパービジョンは、振舞が指導するワーク定義として理解されうる。この定義をもう一度見通して、自分の、あなたにとって意義ある補足を見出して下さい！</p>	
<p>教育スーパービジョンは、教育的労働領域における職業活動のできるだけ偏見のない、価値オープンな、指導された反省を意味している。教育スーパービジョンは常に、職業同伴的に、自由意志で行われ、時間的に限定されている。</p> <p>それは、1人の教育者の協同的同伴と支援に奉仕する。教育的労働領域における具体的な事象から出発して、スーパーバイザーと1人の教育学的エキスパート - 教育学的スーパーバイザー - が一緒に、職業関連の観点、思考、感情、振舞について考察する。スーパーバイザーは、そのさい「自分自身とコンタクトをもつ」べきである。スーパーバイザーは、スーパーバイザーに解明触媒として奉仕する。</p> <p>スーパービジョンの基礎は、志向すべき対称的なコミュニケーションに基づく信頼豊かなクリーマである。</p> <p>スーパービジョンの目標は、一方では、構造的克服であり、他方では、実践の変化である。</p> <p>専門的な諸観点とならんで、人格特殊な問いが職業労働を直接的、あるいは間接的に妨害する場合には、人格特殊な問いも編入される。</p>	
<p>この教育スーパービジョンを、一般的な教師たちのための教育スーパービジョンと区別して下さい。</p>	<p>重なり： 違い：</p>

教育スーパービジョンのメルクマール	自分の注釈
<p>ここでもう一度キーワードの形でキールコンセプトに適した教育スーパービジョンのメルクマールをあげます。それらを吟味し、できればそれについてのあなたの立脚点を他者の人と討論して下さい。</p> <p>あなたの補足、問い、批判的注釈などをメモして下さい。</p>	
<p>- 価値なし - 価値オープン - 職業同伴的 - 自由意志 - 時間的限定 - 信頼豊かなクリーマ - 対称的コミュニケーション</p>	

教育スーパービジョンの目標	自分の注釈
<p>キールコンセプトに従った教育スーパービジョンの上位に整理された目標は次のものである</p> <p>- 実践の構造的克服 - 実践の変化</p> <p>あなたにとって重要なスーパービジョンの（さらなる）目標をあげなさい。自分の経験に基づいて、その短期的、中期的、長期的実現がどのように実際的だとみなしているか吟味し、議論しなさい。</p>	

資料 4：教育スーパービジョンのレベル

複合的な教育学的事象を一定の諸アスペクトに暫定的に分離し焦点化することが、複合的な教育学的事象へのシステムの - 分析的アプローチを容易にするので、われわれは吸い上げプロセスのために四つのワークレベルを区別している。

四つのレベルの本質的メルクマールをキーワードで挙げてください。

教育スーパービジョンの四つのレベル			
方法的 - 教授学的 レベル	目標パースペクティブ 的レベル	人格定位的レベル	制度的レベル
<p>キーコンセプトの枠内で、制度的レベルは下位に置かれた役割を演じる。あなたは、どのように、スーパービジョンにおける制度的レベルを考慮したいですか？</p>			

日常において、教育活動は、多種多様な、密接な織り交ざった諸ファクターの分割しえない、複合的な全構造として現れる。それぞれの分析的分節化は、それが上述したように、プラグマティックなスーパービジョンワークにおいて好都合だと確認されているとしても、それは、それゆえ結局、任意のままである。それは、利点と不都合をもつ。

あなたは、あなたのスーパービジョンワークのために、あなたの日常的教育活動においてこの事象をどのように分節したいですか？

自分で標識ないしカテゴリーを熟慮してください。

資料5：教育スーパービジョンと実践

教育者がスーパービジョンに持ち込む多様なテーマと関心事は、日常的な労働実践から生じる。問いは、どのような方法でこの実践が実際的にスーパービジョンワークへ編入されうるかである。

教育スーパービジョンのために、部分的に隣接する労働領域に起源をもつ方法が提供される。実践をスーパービジョンワークに統合するさまざまな可能性をもつリストがこのワークシートに書かれている。個々の方法を見渡し、あなたはどのような条件のもとであるものが意味豊かであり、あるいは別のものが意味豊かであるとみなすか、吟味しなさい。

教育実践をスーパービジョンへ編入する諸方法	その時々の方法を持ち込みうる諸条件、 質問設定あるいは問題設定
1. 授業参観	
2. 記録／報告	
3. 口頭で述べる	
4. ある場面の追跡	
5. テープレコーダー記録あるいはビデオ記録	
6. トランスクリプト	
7. 事例研究	
8. ?	

資料6：スーパービジョン 対 精神衛生、トレーニング、相談、コーチング

スーパービジョンを実践同伴と実践相談の自立的な、オールタナティブな形式として設立したいならば、そのワーク領域ができるだけ明確に定義され、他の、類似のワーク形式から限定づけられねばならない。

スーパービジョンについてのあなたの理解をもう一度書き、続いて、他の、類似のワーク形式と照らし合わせてください。どこに違いが見られますか、どこに重なりがみられますか？

スーパービジョン：

コーチング：

トレーニング：

相談：

セラピー：

精神衛生法：

あなたはスーパービジョンと類似している、もっと別のワーク形式を知っていますか。

資料 7：授業協議のさまざまな形式との比較における教師のための教育スーパービジョン

授業協議は教育スーパービジョンの部分でありうるにもかかわらず、実践同伴と実践相談のこのオルタナティブな形式は、今までどおりの授業協議とは異なっている。

次の表は、授業協議のさまざまな部類をリストアップし、主要な形式を挙げている。固有のキーワードによって該当する授業協議の形式を思いだし、スーパービジョンの意味における授業協議とは異なる点をあげ、それらを限定づけなさい。

授 業 協 議
1. 伝統的なムスターにしたがって：
2. 一定の理論的着手にしたがって：
3. 一定の振舞カテゴリーにしたがって：
4. 診断学的意味において：

これまでにあなたは授業協議でどのような経験をしましたか？

あなたは - あなたの経験に基づいて - どのような区分を受け入れたいですか？

あなたは、教授協議がどのようなだったらいいと望んでいましたか？

自己の経験：
自己の区分：
私の「望む授業協議」：